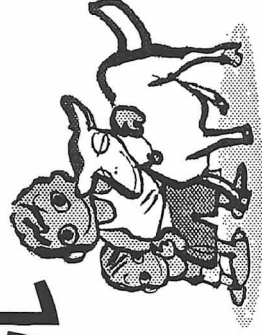


# シヤプラニール



# 広場



屋敷地 (バリ) のピース並べに熱中する  
東村山市立M小学校の6年生。

参加者が主人公

## ソフィアさんちの家族マップ — バングラデシユの村を知る —

教材チーム 評議員 東宏乃

「バングラデシユに行ってみた  
と思った。なんだか幸せそう(中  
学生)「牛もいっしょに、果物に  
囲まれて暮らしてみたい」(小学  
生)「バングラデシユについてゼロ  
から学んで、ワクワクした」(大  
学生)「村の女性についてもっと知  
りたくなる教材だった」(大)

これは、二〇〇一年夏の開  
発教育スタディツアーの参加者  
が、一年がかりで試行と実践を  
重ねてきた教材「ソフィアさん  
ちの家族マップ」(旧名称「バリ福  
笑いマップ」)の感想です。この教  
材は、アムラボ村のソフィアさん  
一家三世代九人の暮らしを、屋  
敷地バリの中庭に、家や牛小屋

井戸、果樹などのピースを、福  
笑いのように並べていくグルー  
プワークを中心としています。

ツアーで滞在したシヨミテイの  
リーダー、ソフィアさんと彼  
女の屋敷地がとても居心地がよ  
かったので、その雰囲気やアジア  
の豊かな一面として伝えようと考  
案されました。ですからこの教材  
のアイデアは、現場で三十年も  
活動してきたシヤプラニールと村  
人との信頼関係から生まれたオ  
リジナルなものです。

この教材を使った授業では、  
まず写真を読み込んで導入を行  
い、なじみのないバングラデシユ  
やアムラボ村の暮らしにスーッ  
と入っていきます。その国の人々  
の生活を具体的にイメージしな  
がら、多文化共生の感覚を自然  
に育むことができます。

何より、この教材の一番の良  
さは「楽しい」ということ。大  
人も子どもも、参加者は屋敷地  
バリのピース並べに熱中し、自

ら互いに問いを発し、電気も水  
道もないアジアの生活について自  
由に考えをめぐらせます。

例えば「牛と人間はいっしょ  
に暮らすの?」「水は大事、池  
を真ん中に。あーでも、井戸が  
中心かな?」「トイレは家から遠  
い方がいいのかな?」など、ワイ  
ワイと作業は進みます。ある男  
子生徒が「洗濯するから井戸は  
お母さんが住む家の近くに」と  
意見を出し、周りが関心するこ  
ともあります。クラスの生徒全員  
が意見を出せること、参加者同  
士の学びが共有される点も、こ  
の教材の特徴です。

「中庭を囲んで家がつている  
なんてなんだかステキ。日本は  
ブロック塀だけど、家と家の境  
界が果物の木なら閉じ込められ  
ない感じがして、アムラボは『い  
いな』なんて思ったり」「私の家  
族も親戚がかたまつて住んでい  
ますが、ソフィアさんちのよう  
に、コミュニケーションを大事に  
しているのがいい」とも。この  
ように、自分たちの暮らしや家  
族のあり方に思い至る点も、こ  
の教材のねらいです。授業後半  
の「ふりかえり」では、ソフィア  
さんちの屋敷地を典型例とした  
日常生活の工夫や「一人称で語

られるこの家族の物語」が紹介  
されます。夫婦の語らい、姉の  
恋、十二歳、三男の将来への不安  
嫁の役割など、「物語」をもとに、  
授業のまとめとして寸劇が生ま  
れるなどの展開も期待できます。

教材にリアリティがあるので調  
べ学習が進展しやすいと先生方にも  
好評で、二〇〇二年七月に「途  
上国から学ぶ総合学習」のテーマ  
としてNHKでも紹介されました。

私は、先進国の私たちが、物  
質的ではないもう一つの豊かさを  
選ぶための知恵と勇気を分  
かちあうことが、開発教育にお  
けるNGOの役割だと考えてい  
ます。ある消費者ネットのメン  
バーは「アジアの村に流れるゆっ  
たりとした時間を感じられるよ  
うな教材で、感激」と、まさしく  
この教材の核心を言い当てて  
くれました。

「ソフィアさんちの家族マップ」  
は、製品化しようと、検討を進  
めています。今後は、バングラデ  
シユの少数民族や都市の屋敷地  
もとりあげ、教材をシリーズ化  
してはどうかという意見もいた  
だいています。皆さんの地域活動  
や、学校の総合的学習の時間に  
この教材を活用してみませんか?  
ご意見をお聞かせください。